

# BIBLE + MESSAGE

## 初めに、神が天と地を創造した。

(創世記 1 章 1 節)

聖書は全部で 66 の書物から成っています。その一番初めの書である「創世記」の冒頭に記されているのが、上記のみことばです。

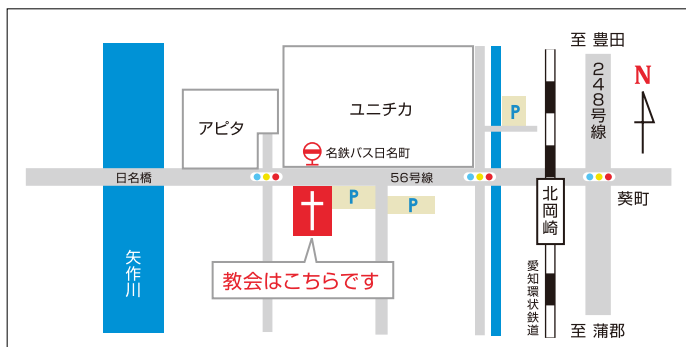
皆さんは、この世界の始まりについて、考えられたことはあるでしょうか？それは現代科学でも未だにはっきりと説明することができない不思議なことのひとつであると思います。このことについて聖書が教えているのは、「創造主なる神がおられ、神の御手によって、この世界のありとあらゆるものが造られた」という真理です。

「神は存在するのか？」という問いかけは、私たち人間にとって、とても大きなテーマです。クリスチャンと呼ばれる人は皆、「神は存在する」という信仰を持っています。そして、神が存在するという前提で、神のみことばである「聖書」から学び、その教えを実践しようとしています。あなたは神の存在について、どのように考えておられるでしょうか？

### お気軽に教会へお越しください

毎週日曜日の午前 11 時から 12 時半まで礼拝が行われています。

聖書に興味のある方は、ぜひ礼拝にご出席ください。



- ◆名鉄バス「日名町」前
- ◆愛知環状鉄道「北岡崎駅」から西へ徒歩3分
- ◆アビタ北岡崎店 筋向かい



スマホで上記のQRコードを読み込むと地図を表示できます。

# 聖書を読んだ日本人

千円札の肖像画でおなじみの野口英世。世界的に有名な日本を代表する細菌学者です。左手に重い障がいを持ちながらも、勉学に励んだ彼は、黄熱病や梅毒などの研究において、多大なる成果を収めます。さまざまな出版社から野口英世の伝記が出ていますので、彼の生涯については、多くの方が既にご存知であると思います。

しかし、そんな野口英世がクリスチャンであったということはないでしょう。1894年のこと、彼の住んでいた村で、藤生金六（ふじうきんろく）という牧師が英語塾を始めます。

英世（当時の名は清作）はその英語塾に通うようになるのですが、18歳のとき、彼はキリストを信じ、※洗礼を受けるに至ります。彼はその教会（現在の日本基督教団若松栄町教会）の二人目の洗礼者として名が記され、今でもその記録が残っているそうです。また、彼が当時、クリスマスの手伝いや、日曜学校のカードを配る奉仕を熱心に行っていたという話があるそうです。そんな彼は生前、こんな言葉を残しています。「私は教えに來たのではありません。習いに來たのです」。これは彼がブラジルに渡った時の言葉です。既に細菌学者として名の知れ渡っ

ていた彼が、記者会見の際に語ったこの謙遜な言葉に、現地の記者たちは大変驚いたそうです。野口の姿勢は好感を持って受け入れられ、彼は南米で多くの若い研究者たちを育成することになります。イエス・キリストは「偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者となりなさい」と弟子たちに教えられました。おそらく野口は、キリストのこの教えを実践しようとしたのではないのでしょうか。

※洗礼…キリストを信じた者が、その信仰の公の証しとして受ける儀式。当教会では原語どおり「バプテスマ」と呼んでいます。



野口 英世  
(のぐちひでよ)  
1876年～1928年